

(試験研究課題年次別解説集様式2号：継続課題用)

# サバ類の資源生態研究

(我が国周辺漁業資源調査)

(予算区分 委託 研究期間 平成7年度～)

担当：漁業開発部資源海洋研究室

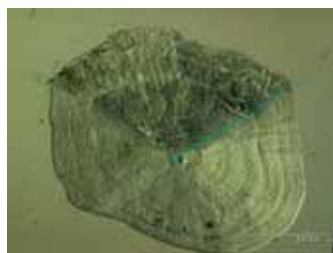
## 【研究の背景とねらい】

国連海洋法条約批准に伴い、我が国周辺における漁業資源の漁獲可能量(TAC)を決定し、資源の保存及び管理に関する措置が義務付けられています。それを受け、重要魚種については資源評価が行われ、対象魚種の漁獲統計や生物情報等の収集が行われています。

マサバ、ゴマサバについても、資源評価のための調査を行うとともに、適正な漁獲量の推定と短期的な漁況予測をします。

## 【これまでに得られた成果】

- ・マサバの資源量は1970年代には400万トン、1980年代には150万トンに減少し、近年では30万トン以下の低水準となっていたが、資源水準の高い2004年級群の発生により、2005年及び2006年は約50～70万トンに増加したと推定されました。
- ・1995年以降のゴマサバの資源量は、1996年、1999年、2000年及び2003年以降30万トン以上と推定されました。卓越年級群である2004年級群により2004年に約65万トンとピークを迎えた後、2005年及び2006年は減少したものの、依然高水準であると推定されました。
- ・サバ類資源の維持が可能と考えられる2008年漁期の漁獲量は、マサバで12.3万トン、ゴマサバで11.2万トンと推定されました。
- ・現存するマサバ、ゴマサバ資源の年齢組成は、いずれも資源水準が高いと考えられている1歳魚(2007年級群)主体に、加入水準が高かった4歳魚(2004年級群)が混じっており、今後、漁獲されるサバ類の大きさは、マサバでは28cm以下(1歳魚)と32～38cm(4歳魚)、ゴマサバでは30cm以下(1歳魚)と31cm以上(4歳魚)が中心となると考えられました。また、その間の2005年及び2006年級群の資源水準は、いずれも低いと考えられています。



写真：年齢形質として使用されるゴマサバのウロコ

## 【期待される成果】

- ・適正な漁獲量の提言と漁獲制限の実施によるサバ類資源の維持安定が期待されます。

## 【今後の計画】

- ・ウロコや耳石などの年齢形質を用いた簡易年齢査定法の開発を行います。
- ・卓越年級群の保護によるマサバ資源の回復を図るために、早期にマサバ0歳魚の資源水準の把握を行います。

(作成 平成20年4月)